

た年齢階級では70歳代が46.5%と最も多かった。居住年数は30年以上の人が47.8%であった。家族構成は、単身、高齢世帯、その他がほぼ同じ割合であった。就労状況では就労している人が12.6%であった。

健康レベルでは虚弱に該当する人が29.6%、一般に該当する人が70.4%であった。

### 3) 合併による高齢者の日常生活の変化 (表3)

合併があった市町村の回答者に対して、合併による日常生活の変化について尋ねた。なお、設問の⑥以降は一般の人の方に尋ねた。

#### ①新市町村の窓口のわかりやすさ

「新市町村の窓口はわかりやすくなりましたか」、という問いには、都市郊外の一般高齢者の41.7%が「そう思わない」と回答していた。山村の虚弱の21.1%、一般の61.3%は「変わらない」という回答であったが、虚弱は「そうは思わない」「わからない」がそれぞれ1/3みられた。

#### ②利用できる施設やサービスの増加

「利用できる施設はサービスが増えましたか」と尋ねた。全般的には「変わらない」の回答が多いが、都市郊外は、「そうは思わない」の回答割合も、「変わらない」と近い割合でみられた。

#### ③保健福祉サービスが提供される場所

「保健福祉サービスが提供される場所は近くなりましたか」に対しては、「変わらない」が全般的に多いが、山村の虚弱に関しては、「そうは思わない」がそれに続いていた。

#### ④保健福祉サービスの利用頻度

「保健福祉サービスを利用する頻度は増えましたか」に対しては、全般的には「変わらない」の回答が多いが、都市郊外は、「そ

うは思わない」の回答割合も、「変わらない」と近い割合でみられた。

#### ⑤利用できる公共施設の増加

「利用できる公共施設は増えましたか」の問いでは「変わらない」の割合が高かった。

#### ⑥祭りや各種行事の増加

「祭りや行事は増えましたか」に関しては「変わらない」の回答割合が地方市、山村で最も高く、都市郊外では「変わらない」と「そうは思わない」の回答が同じであった。

#### ⑦役場・役所の距離

「役場や役所の距離は遠くなりましたか」に対しては、どの地域でも「変わらない」の回答割合が最も高かった。

#### ⑧旧市町村の人同士の連帯感

「旧市町村の人同士の連帯感は深まりましたか」に対しては、どの地域においても「変わらない」の回答割合が最も高かったが、それぞれにおいて「そう思う」「そうは思わない」の人もみられた。

#### ⑨他の市町村で合併して同じ市町村になった人とのつきあいの広がり

「他の市町村で合併して同じ市町村になった人とのつきあいは広がり了吗か」の問いには、「変わらない」がどの地域でも最も多かった。都市郊外では、それ以外の回答は「そうは思わない」であったが、地方市では「そう思う」と回答した人もいた。山村では「そう思う」の人と「そう思わない」の人が近い割合で存在した。

#### ⑩日常的に出かける範囲の広がり

「日常的に出かける範囲は広がり了吗か」に対しては、全般的に「変わらない」が最も多かった。

#### ⑪きめ細やかな行政サービス

「きめ細やかな行政サービスが得られにく

くなりましたか」では、都市郊外、地方市では「そう思う」の回答割合が最も高かった。山村は「変わらない」の割合が最も高かったが「そう思う」がそれに続いていた。

#### ⑫住民の声が行政に届きやすさ

「住民の声が行政に届きにくくなりましたか」に関しては、都市郊外、地方市は「そう思う」の回答割合が最も高かった。山村では「変わらない」が43.3%と最も高かったが、「そう思う」が36.7%でそれに続いていた。

#### ⑬行政職員への相談の容易さ

「行政職員へ相談をしにくくなりましたか」ではどの地域においても「そう思う」と「変わらない」の回答割合が近かった。

### 4) 地域別・健康度別の高齢者の日常生活

#### ①外出する場所 (表4)

「買い物」「金融機関・郵便局」「病院・クリニック」「その他」の場所について、日頃行きますか、という問いに対する回答は表3に示したとおりである。虚弱の人はほとんどが「病院・クリニック」には「行く」、と回答している。買い物に関しては、都市部、都市近郊の虚弱は、一般と同じ割合で行っているものの、地方市、山村の虚弱は、半数程度しか行っていなかった。また一般は買い物はどの地域においてもおよそ80%以上が行くと回答した。また病院・クリニックへは一般もどの地域においても80%以上行っていた。

食料品の買い物等に自分で行かない高齢者にどのような手段で手に入れるのか尋ねたところ、都市部では生協などの宅配、地方市や山村では知り合いの店から届けてもらう、同居していない家族から買ってもらう、まとめ買いをする等の手段で食料品の確

保を行っていた。

#### ②交流の状況 (表5)

「1週間以内に近所の人や地域の人と会いましたか」の問いには、最も回答割合が低い都市郊外の虚弱の人も半数以上は「はい」と回答していた。

交流している場所は、友人の家や、自宅、娘等の家といった個人宅が多く、その他はコミュニティセンター・公民館・集会場や、趣味の集まりの場所であった。

#### ③高齢者が感じる身近な地域の範囲

##### (表6)

高齢者が感じる身近な地域について、複数回答で選択してもらった。「隣・近所」の範囲であっても都市郊外の虚弱高齢者を除き、選択した割合は半数以下であった。またその他の回答の中では「どこも身近な、という感じではない」といった回答や、合併のあった地域では「もとの村」といった回答であった。

#### ④地域に対する愛着度 (表7)

「地域に対する愛着はどのくらいですか」と問い、4つの選択肢の中から1つを選んでもらった。「大いにある」との回答は山村部の高齢者に多くみられた。「多いにある」「どちらかといえばある」を加えれば、どの地域も約8割程度の人は愛着を持っていた。

#### ⑤参加している地縁組織 (表8)

参加している地縁組織のうち、どの地域、どちらの健康度の対象においても高い参加割合がなされていたのは「隣組」「字会・町会・自治会」「老人会」であった。都市部においては「字会・町会・自治会」の参加割合が高く、都市郊外、山村では「老人会」に参加している対象が回答者が多かった。

一方、どの組織にも参加していない高齢者は都市部の虚弱が最も高く46.7%、次いで地

方市の虚弱 42.9%、都市郊外の虚弱 33.3%と続いていた。全般的にはどの地域においても、虚弱の参加割合が低かった。山村の一般は、参加していないと回答した人はいなかった。

⑥地縁組織以外の住民の自主的な活動への参加状況とその内容 (表 9) (表 10)

地縁組織以外の住民の自主的な活動への参加状況を尋ねたところ、どの地域においても、一般の参加割合は 50%以上となっていた。参加割合が最も低かったのは山村の高齢者で 10.5%であった。

参加している人に、具体的に参加している活動の内容を聞いた結果を表 9 に示した。もっとも多かったのが「趣味のサークル」で全体で 35.2%、次いで「運動や体操」29.6%、「サロン・おしゃべり・食事会」23.9%と続いていた。(表 10)

#### ⑦保健福祉センターの利用状況 (表 11)

1ヶ月以外に保健福祉センターを利用したかについて尋ねたところ、都市郊外の回答者は半数が利用していた。しかし地方市の虚弱は全員が、また都市部の虚弱は 73.3%が利用していなかった。都市部、都市近郊は虚弱のほうの利用割合が低かったが、山村は一般のほうの利用割合が虚弱よりも低かった。

#### ⑧保健センターを利用しなかった理由 (表 12)

上記の設問で「利用していない」と回答した人に対して、利用しなかった理由を尋ねたのが、表 12 である。双方とも最も多かったのは「その他」であった。次いで虚弱では「何が行われているか知らない」、一般では「行きたいメニューがない」が多かった。

また「その他」の理由では、「いく必要がない」11名、「病院に行っているので必要が

ない」9名「行事がなかったから」6名の順になっていた。またそれぞれ数は少ないが「今はコミュニティセンターに行くから必要ない」等の、保健センターの機能が十分理解されていないと思われる発言や、「目が悪いから」「足が悪いから」といった、身体的な障害に理由を有する人もいた。

#### ⑨1年以内の行政職員との関わり (表 13)

「1年以内に行政職員と何かかかわりがありましたか」の問いに対しては、都市部の高齢者、地方市の一般を除いて半数以上が「あり」と回答した。

#### ⑩行政職員からのまちづくり等に関する意見の聴取状況 (表 14)

「行政職員からまちづくり等に関する意見を聞かれたことがありますか」という問いに対して、「あり」と回答したのは一般高齢者のみで、虚弱高齢者は全員がその経験がなかった。

#### 5) 高齢者の日常生活圏の範囲と影響要因

##### ①地域特性別・健康度別の高齢者の日常生活圏域の範囲 (目的地、手段、時間も含む) (表 15)・(表 16)

地域特性別、健康度別に、日常生活圏域の範囲を示したものが表 15 である。全般的に、都市部が最も日常生活圏域が小さく、虚弱  $0.91 \pm 1.10 \text{ Km}$ 、一般  $1.71 \pm 2.49 \text{ Km}$ 、一方、山村が虚弱  $7.30 \pm 9.32 \text{ Km}$  一般  $11.50 \pm 12.23 \text{ Km}$  と最も遠くなっている。健康度別で見ると、各地域において虚弱の日常生活圏域は一般よりも狭かった。しかし、山村の虚弱の日常生活圏域は、他の地域特性の一般の生活圏域よりも広がった。

この日常生活圏域として算出した外出先についてみたのが、表 16 である。どの地域、

どの対象においても「買い物」の場が最も遠い生活圏域であった。

#### ②日常生活圏域に影響する要因 (表 17)

日常生活圏域の距離を要因別にみたものが表 17 である。地域別にみると、山村の日常生活圏域が最も遠い。健康度に関しては、一般のほうが広いものの、統計的な有意差はみられなかった、性別では男性のほうが広がったが、これに関しても有意差はみられなかった。年齢階級をみると、60 歳代と 70 歳代はあまり差はみられないが、80 歳代 90 歳代になるにつれて、生活圏域は狭くなっている。家族構成では、高齢世帯の日常生活圏域が最も広く、有意差がみられた。就労状況、地縁組織活動への参加、住民の主体的活動の参加の有無での差はみられなかった。合併の有無別にみると、合併した市町村の住民のほうが、生活圏の距離は広く有意差がみられた。

### D. 考察

本調査対象は、日本全国のさまざまな地域の高齢者である。過去、日本の広い地域の高齢者に対して、聞き取りによってその日常生活や日常生活圏域にかかわる調査を行ったものはないこと、全体で 159 名のデータが得られたことは本調査の特筆すべき点であると思われるが、対象のリクルートに関しては各協力自治体の状況によりさまざまであり、必ずしも各地域の高齢者を代表したものとはなり得てはいない。そのため、代表性や普遍性の点に限界を有するものである。

#### 1) 合併による高齢者の日常生活の変化について

全部で 13 項目の設問を設定し、合併にかかわる日常生活の変化について尋ねたところ、

一般的には「変わらない」との回答が多くみられたものの、「利用できるサービスや施設の増加」に関しては、「そう思わない」の回答が多く、また「きめ細やかなサービス」「住民の声の行政への届きやすさ」「行政職員への相談のしやすさ」のいわば行政や行政職員との物理的、精神的な「近さ」によって得られるような事項に関しては、どちらかというとな否定的な回答が多かった。

石原ら<sup>2)</sup>は保健師に対して市町村合併により生じたと考える変化について記述式の調査を行っているが、その中でも住民が、住民と保健師との関係の希薄化、サービスの減少を感じていることが述べられていた。このことから、市町村合併は、サービスの点に関してはどちらかというとなサービスの低下としてとらえられていると思われた。

#### 2) 地域別・健康度別の高齢者の日常生活の状況について

本調査の高齢者は、健康度にかかわらず買い物その他の外出行動を行っていたが、一部地域の虚弱高齢者は、買い物等の行動をあまり行っていない様子もうかがえた。本調査では日常の外出の手段に関しては尋ねていないが、地方では自家用車が外出手段の中心と考えられることから、そのことが他の地域の高齢者よりも外出を困難にさせているのではないかと考えられた。このことは、買い物等に同行してくれる家族や友人の存在の有無によって、外出の困難度や範囲に大きな違いが出てくるのではないかと考えられる。

近所の人との交流についてみると、平成 15 年に内閣府が行った調査<sup>2)</sup>では、親しくつきあっているが 52.0%、あいさつをする程度 40.9%となっている。本調査は挨拶をする程

度は除くことを示した上での調査であるが、地域別健康度別で5割～8割弱が交流ありと回答しており、全般的には地域との交流がみられる集団であった。

また内閣府の調査<sup>1)</sup>では地域の団体への参加状況も調査しているが、その結果では、町内会・自治会が最も高く39.1% (本調査15.8～47.6%) 「趣味のサークル・団体」22.0% (本調査10.5～62.5%) 「老人会」20.9% (13.3～64.5%) 参加している団体がないと回答した割合は34.7% (0～46.7%) となっていた。地域組織への参加は、本調査の対象集団においては、必ずしも都市部あるいは虚弱高齢者の参加割合が、どの組織においても低いということではなかった。住民の参加を考える際には、地域にある組織に対する働きかけを行う場合が多いが、住民の組織への参加のありようも各地域に応じて異なっており、地域の状況に応じた働きかけの必要性が考えられた。

本調査では高齢者が「身近に感じる地域」という表現で高齢者の主観的な日常生活圏をとらえることを試みた。その結果、隣近所であっても、身近な地域と感じる人は決して多くはない状況が伺われた。本調査対象は、地域の人との交流状況は全国調査よりも高く、また地域への愛着を感じている割合も多くの人が持っているという結果ではあったが、それが身近な地域という意識にはつながっていないことが伺われた。

ただし、大畑<sup>2)</sup>らの大都市部に居住する高齢者に対し介護サービスの観点から生活圏を尋ねた調査結果では、高齢者がとらえる生活圏は市内全域と地区センターで全体の半数以上を占めていた。このように本調査結果とはかなり異なる状況がみられており、この

ことは、高齢者の主観から日常生活圏をとらえることの難しさを示していると思われ、本調査結果もこの点を加味して考える人が必要と思われた。た。

### 3) 高齢者の日常生活圏域について

今回の日常生活圏域に関しては、週1回以上出かける場所への自宅からの直線距離をその定義とした。そのため、実際に高齢者が「動く」距離とは異なっているが、その一端をとらえたものと言える。

本定義での高齢者の日常生活圏は、日常に出かける場所として最も頻度の高い場所である買い物の場が身近で得られる都市部、その逆の状況である山村を除き、都市郊外、地方市に着目すると、おおよそ半径2～3km程度、となっている。小学校区の範囲が約4km、中学校区が約6kmと設定されていることを考えると、高齢者の日常生活圏域は、都市部や山村部以外の地域においては、おおよそ小学校区程度であると考えられよう。この週に1回以上でかける場で最も遠い場は買い物であった。この結果から高齢者の日常生活の動きは、生きる上で欠かすことのできない食料を日常的に手に入れる場所がどこかにより、かなり影響を受けていることが伺われた。

さらに、買い物の場について、経済産業面から考察する。内閣府政府広報室が平成17年5月に行った「小売店舗等に関する世論調査」<sup>4)</sup>において、4～5年前と現在を比べた買い物の便利さについて、都市規模別では町村の11.4%が「不便になった」(全体平均6.5%)と回答し、年齢別では60～69歳の7.6%、70歳以上の10.1%が「不便になった」(30歳代4.5%、40歳代5.6%)と回答している。さらに、買い物をする店を選ぶ際に重視してい

るのは60歳代と70歳以上が「近い(徒歩や自転車で行くことができる)」を挙げたものが4割弱ある。商業統計<sup>5)</sup>では、平成14年と平成16年の変化として、大型店がロードサイド、工業地区といった郊外へ立地割合が拡大している。これらのことから、今回の調査で最も外出する目的として多い買い物の行動範囲や方法が、ここ数年で高齢者に大きな影響を与えていることが裏付けられる。しかし、この変化は市町村合併によるものというより、商工業の形態の変化によるものの影響が大きいのではないかと考えられる。

以前は近所に徒歩で買い物をし、商店主などとコミュニケーションを図ることが出来ていたものが、自動車で大型店に行くことで、日常生活活動量、コミュニケーション量共に減少し、日常生活活動量を増やすために何らかのサービス提供を行わなければならないような事態につながることも大いに考えられることである。保健福祉サービス提供のあり方を考える際には、商工業など日常生活に密接したサービスとの連携は欠かせないのではないかと考えられる。

一方、この生活圏域に影響を与える要因についてみると、有意差がみられたものは、地域、家族構成、合併の有無であった。このうち合併の有無は、有意差は強いものの、合併によって高齢者の日常生活行動自体が大きく変化することは考えにくいこと、合併した所の中に日常生活圏域の距離が最も長い山村が含まれること考えると、地域の要素によって規定されている結果であると考えられた。地域別では、都市部では日常生活圏の距離は短く、一方山村では長くなっていた。これは買い物の場が身近にある都市部と、それが得られにくい山村との地域の状況が表れ

た結果であると思われた。家族構成では、独居の人は独力で何でも行わねばならないため距離が長いのではないかと予想したが、実際は高齢世帯が最も長かった。これに関しては解釈が困難であり、今後も検討が必要と思われる。また違いが予想された健康度による差は、有意差はみられなかった。しかし、地域特性別にみても、明らかに虚弱高齢者のほうが日常生活圏域は狭い。虚弱高齢者は、他者の支援を基本とせずに地域で生活している人の中では最も脆弱な存在とも考えられ、その虚弱高齢者がサービスにアクセスできることは、今後の要介護状態予防の観点から重要と考えられる。日常生活圏域の設定やサービスの提供の場の設定の歳には、虚弱高齢者の実情に着目した設定が必要であると思われる。

#### 4) 高齢者の日常生活圏域設定・サービスの場の設定への示唆

地方自治体で実際に設定されている日常生活圏域をみると、中学校区や中学校区をいくつかあわせた地域が多くみられるようである。しかし、中学校区でも距離は6kmであり、今回調査した高齢者の平均的な日常生活圏域からは若干広いことが伺われた。都市部、山村を除いた地域が日本の平均的な地域と仮定すれば、虚弱高齢者にとっては、小学校区程度にサービスの場がおかれることが日常行動と合致したあり方ということになる。またその場所に関して、最も簡便なのは、生活の必須の場である買い物の場の近くにおかれることだろう。スウェーデン<sup>4)</sup>では、地域のクリニックと保健センター機能を持つ施設は、多くの場合、町の中心の買い物等にも便利な場に設置されることが多いとい

う。サービス拠点の置き方としては、買い物や病院などと他の用を足すついでにアクセス出来るような場所に設定することも1つの策であろう。またはサービスのアウトリーチを増やし、身近な場所でサービスを受けられるような体制を整えることも検討すべきである。

今回の調査では、保健福祉センターを経由して調査依頼を行った対象であるにもかかわらず、保健福祉センターは特に虚弱高齢者に利用されていない実態が明らかとなっている。その理由が「何が行われているか知らない」という回答が相当割合あったこと、保健福祉センターの機能自体が理解されていないことが推察される回答が自由記載で見られたことを考えると、虚弱高齢者に目につく場所にサービスの拠点が置かれることで、保健福祉センターの存在や機能を知ってもらうことが必要であると考えられた。

また今回は、一般高齢者の日常生活圏域も調査し、その距離も算出してはいるが、基本的に一般高齢者は、半数以上が自主的な活動へ参加するなど、活力のある存在であり、サービスを受ける対象ではなく、住みやすい町づくり、地域づくりを行ってゆく主体ととらえられる。しかしこのような一般高齢者であっても、町づくり等に意見を求められている人は都市部だけは3割近いが、他の地域では2割に満たない。虚弱高齢者に至っては、行政からまちづくりについての意見を求められた経験を持つものは誰もいなかった。日常生活圏域の設定にあたっては、本調査結果等を話し合いの素材として住民に提示し、高齢者自身にどのようなあり方が望ましいのか一緒に考えてゆくことが望ましいと考えられた。

## E. 結論

都市部、都市近郊、地方市、山村の4地域10自治体に居住する高齢者に対し、地域組織への参加を中心とした日常生活の状況、合併による影響、生活圏域の広さについて聞き取り調査を行った。

高齢者の約半数は地域組織への参加をしておらず、行政職員とのつながりは薄かった。合併に関しては、合併によりサービスの質が低下したと捉えていた。また日常生活圏域は、健康度とともに、地域特性により大きく左右されることが明らかとなった。

## 引用文献

- 1) 石原多佳子、玉置真理子、後閑容子、他. 市町村合併に伴う保健師活動に関する調査第2報. 第65回日本公衆衛生学会総会抄録集,508,2006.
  - 2) 内閣府. 高齢者の地域社会への参加に関する意識調査 2004
  - 3) 大畑政子、萱場一則、丸山優、他. 大都市近郊に居住する高齢者が感じる生活圏. 日本公衆衛生雑誌 53 (12) ,899-905,2006
  - 4) 内閣府大臣官房政府公報室. 小売店舗等に関する世論調査、平成17年5月
  - 5) 経済産業省. 商業統計 立地環境特性別統計 平成16年
  - 6) 日本看護協会 先駆的保健活動交流推進事業報告書超高齢化社会の保健活動 1994
1. 論文発表  
なし
  2. 学会発表
    - 1) 鳩野洋子他・市町村合併に伴う日常生活圏域と保健サービス提供のあり方：第3報・第65回日本公衆衛生学会 平成18年10月

- 2) 鳩野洋子他・A survey on community health care programs aimed to prevent Japanese elderly becoming housebound  
2・第134回アメリカ公衆衛生学会  
平成18年11月

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし



表1 協力自治体の属性

地域特性		協力者数 人	人口 人	合併の有無
			* ( )は合併前旧 市町村人口	
都市部	A	15	620,000	なし
	B	24	255,000	なし
都市郊外	C	15	110,000	あり
	D	15	75,000	なし
地方市	E	20	201,000	なし
	F	8	20,000	あり
	G	12	31,000	なし
山村	H	17	22,000	あり
	I	15	30,000	あり
	J	18	600	あり

表2 回答者の属性

項目	選択肢	総計																			
		計		都市部			都市近郊			地方市			山村								
		(人)	割合 (%)	A	B	小計	C	D	小計	E	F	G	小計	H	I	J	小計				
性別	男性	41	25.8	0	2	2	5.1	8	1	9	30.0	10	4	0	14	35.0	5	6	5	16	32.0
	女性	118	74.2	15	22	37	94.9	7	14	21	70.0	10	4	12	26	65.0	12	9	13	34	68.0
年齢階級	60歳代	36	22.6	7	3	10	25.6	8	0	8	26.0	7	2	5	14	35.0	1	1	2	4	8.0
	70歳代	74	46.5	3	13	16	41.0	7	8	15	50.0	11	2	7	20	50.0	9	4	10	23	46.0
	80歳代	44	28.3	5	7	12	30.8	0	6	6	20.0	1	4	0	5	12.5	6	9	6	21	42.0
	90歳代	5	3.1	0	1	1	3.0	0	1	1	4.0	1	0	0	1	2.5	1	1	0	2	4.0
居住年数	1~5年未満	8	5.0	0	3	3	8.0	0	0	0	0	1	2	0	3	7.5	1	1	0	2	4.0
	5~10年未満	9	5.7	3	0	3	8.0	0	1	1	4.0	2	3	0	5	12.5	0	0	0	0	0
	10~20年未満	10	6.3	2	2	4	10.0	2	1	3	10.0	1	1	1	3	7.5	0	0	0	0	0
	20~30年未満	22	13.8	1	1	2	5.0	4	2	6	20.0	12	0	2	14	35.0	0	0	0	0	0
	30年以上	76	47.8	8	18	26	66.6	9	11	20	66.0	3	0	5	8	20.0	12	6	4	22	44.0
	生まれて以来	34	21.4	1	0	1	2.5	0	0	0	0	1	2	4	7	17.5	4	8	14	26	52.0
家族構成	単身	50	31.4	4	10	14	35.9	3	9	12	40.0	2	2	7	11	27.5	3	5	5	13	26.0
	高齢世帯	48	30.2	3	3	6	15.4	6	3	9	30.0	7	3	2	12	30.0	5	4	12	21	42.0
	その他	61	38.4	8	11	19	48.7	6	3	9	30.0	11	3	3	17	42.5	9	6	1	16	32.0
就労状況	している	20	12.6	3	3	6	15.4	2	2	4	13.3	3	0	3	6	15.0	0	3	1	4	8.0
	していない	139	87.4	12	21	33	84.6	2	13	26	86.7	17	8	9	34	85.0	17	12	17	46	92.0
健康レベル	虚弱	47	29.6	2	13	15	38.5	3	3	6	20.0	5	1	1	7	17.5	3	7	9	19	38.0
	一般	112	70.4	13	11	24	61.6	12	12	24	80.0	15	7	11	33	82.5	14	8	9	31	62.0

表3 市町村合併による日常生活の変化

①新市町村の窓口はわかりやすくなった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 虚弱	3	1	33.3	0	0	1	33.3	1	33.3
都市郊外 一般	12	1	8.3	5	41.7	4	33.3	2	16.7
地方市 虚弱	1	1	100	0	0	0	0	0	0
地方市 一般	7	0	0	1	14.3	4	57.1	2	28.6
山村 虚弱	19	1	5.3	7	36.8	4	21.1	7	36.8
山村 一般	31	2	6.5	4	12.9	19	61.3	6	19.4
計	73	6	8.2	17	23.3	32	43.8	18	24.7

②利用できる施設やサービスが増えた

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 虚弱	3	0	0	1	33.3	1	33.3	1	33.3
都市郊外 一般	12	1	8.3	5	41.7	6	50	0	0
地方市 虚弱	1	0	0	0	0	0	0	1	100
地方市 一般	7	2	28.6	0	0	4	57.1	1	14.3
山村 虚弱	19	1	5.3	5	26.3	6	31.6	7	36.8
山村 一般	31	3	9.7	4	12.9	18	58.1	6	19.4
計	73	7	9.6	15	20.5	35	47.9	16	21.9

③保健福祉サービスが提供される場所は近くなった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 虚弱	3	0	0	0	0	2	66.7	1	33.3
都市郊外 一般	12	0	0	1	8.3	11	91.7	0	0
地方市 虚弱	1	0	0	0	0	1	100	0	0
地方市 一般	7	0	0	0	0	6	85.7	1	14.3
山村 虚弱	19	0	0	4	21.1	11	57.9	4	21.1
山村 一般	31	0	0	2	6.5	24	77.4	5	16.1
計	73	0	0	7	9.6	55	75.3	11	15.1

④保健福祉サービスを利用する頻度は増えた

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 虚弱	3	0	0	1	33.3	2	66.7	0	0
都市郊外 一般	12	0	0	5	41.7	7	58.3	0	0
地方市 虚弱	1	0	0	0	0	1	100	0	0
地方市 一般	7	0	0	0	0	6	85.7	1	14.3
山村 虚弱	19	0	0	3	15.8	14	73.7	2	10.5
山村 一般	31	0	0	1	3.2	27	87.1	3	9.7
計	73	0	0	10	13.7	57	78.1	6	8.2

⑤利用できる公共施設が増えた

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 虚弱	3	0	0	1	50	1	50	0	0
都市郊外 一般	12	0	0	2	16.7	10	83.3	0	0
地方市 虚弱	1	0	0	0	0	0	0	0	0
地方市 一般	7	0	0	0	0	5	71.4	2	28.6
山村 虚弱	19	0	0	1	7.7	7	53.8	5	38.5
山村 一般	31	4	13.3	0	0	23	76.7	3	10
計	73	4	5.5	4	5.5	46	63.0	10	13.7

⑥祭りや各種行事が増えた

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	0	0	6	50	6	50	0	0
地方市 一般	7	0	0	1	14.3	5	71.4	1	14.3
山村 一般	31	2	4.7	4	13.3	22	73.3	2	6.7
計	50	2	4.0	11	22.0	33	66.0	3	6.0

⑦役場・役所の距離は遠くなった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	0	0	0	0	12	100	0	0
地方市 一般	7	0	0	0	0	6	85.7	1	14.3
山村 一般	31	5	16.7	0	0	24	80	1	3.3
計	50	5	10.0	0	0	42	84.0	2	4.0

⑧旧市町村の人同士の連帯感が深まった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	1	9.1	0	0	10	90.9	0	0
地方市 一般	7	1	14.3	1	14.3	4	57.1	1	14.3
山村 一般	31	3	10	2	6.7	21	70	4	13.3
計	50	5	10.0	3	6.0	35	70.0	5	10.0

⑨他の市町村で合併して同じ市町村になった人とのつきあいは広がった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	0	0	2	16.7	10	83.3	0	0
地方市 一般	7	2	28.6	0	0	4	57.1	1	14.3
山村 一般	31	4	13.3	5	16.7	17	56.7	4	13.3
計	50	6	12.0	7	14.0	31	62.0	5	10.0

⑩日常的にでかける範囲は広がった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	1	8.3	0	0	11	91.7	0	0
地方市 一般	7	0	0	0	0	6	85.7	1	14.3
山村 一般	31	3	10	3	10	23	76.7	1	3.3
計	50	4	8.0	3	6.0	40	80.0	2	4.0

⑪きめ細やかな行政サービスが得られなくなった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	7	58.3	0	0	5	41.7	0	0
地方市 一般	7	3	42.9	0	0	2	28.6	2	28.6
山村 一般	31	10	33.3	2	6.7	13	43.3	5	16.7
計	50	20	40.0	2	4.0	20	40.0	7	14.0

⑫住民の声が行政に届きにくくなった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	6	50	1	8.3	3	25	2	16.7
地方市 一般	7	3	42.9	0	0	2	28.6	2	28.6
山村 一般	31	11	36.7	2	6.7	13	43.3	4	13.3
計	50	20	40.0	3	6.0	18	36.0	8	16.0

⑬行政職員へ相談をしにくくなった

	n	そう思う		そうは思わな		変わらない		わからない	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市郊外 一般	12	4	33.3	0	0	4	33.3	4	33.3
地方市 一般	7	2	28.6	1	14.3	2	28.6	2	28.6
山村 一般	31	11	36.7	5	16.7	12	40	2	6.7
計	50	17	34.0	6	12.0	18	36.0	8	16.0

表4 外出先別、日頃の外出の有無(「行く」もしくは「交流がある」人の割合

地域特性		買い物		金融機関		病院 クリニック		その他	
		n	人数	人数	%	人数	%	人数	%
都市部	虚弱	15	13	13	86.7	14	93.3	9	60.0
	一般	24	23	20	83.3	21	87.5	12	50.0
都市郊外	虚弱	6	4	4	66.7	6	100	3	50.0
	一般	24	19	22	91.7	22	91.7	14	58.3
地方市	虚弱	7	3	6	85.7	7	100	3	42.9
	一般	33	21	27	81.8	29	87.9	15	45.5
山村	虚弱	19	10	13	68.4	17	89.5	1	5.3
	一般	31	29	30	96.8	25	80.6	7	22.6
計		159	122	135	84.9	141	88.7	64	40.3

表5 1週間以内の近所の人や地域の人との交流の有無「あり」と回答した人

地域特性		n	人数	%
都市部	虚弱	15	10	71.4
	一般	24	15	62.5
都市郊外	虚弱	6	3	50.0
	一般	24	19	79.2
地方市	虚弱	7	4	57.1
	一般	33	24	75.0
山村	虚弱	19	9	47.4
	一般	31	19	61.3
計		159	103	64.8

表6 高齢者が感じる身近な地域の範囲「はい」と回答した人 複数回答

地域特性		隣近所		マンション や団地の一		町会		自治会		小学校区	
		n	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市部	虚弱	15	7	4	26.7	4	26.7	1	6.7	1	6.7
	一般	24	9	4	16.7	5	20.8	1	4.2	0	0.0
都市郊外	虚弱	6	5	3	50.0	0	0.0	2	33.3	2	33.3
	一般	24	8	11	45.8	3	12.5	7	29.2	5	20.8
地方市	虚弱	7	2	0	0.0	2	28.6	1	14.3	0	0.0
	一般	33	11	0	0.0	4	12.1	3	9.1	0	0.0
山村	虚弱	19	6	0	0.0	5	26.3	0	0.0	0	0.0
	一般	31	5	0	0.0	1	3.2	3	9.7	0	0.0
計		159	53	22	13.8	24	15.1	18	11.3	8	5.0

		中学校区		市町村全域		駅までの道 のり		商店街まで の道のり		その他	
		n	人数	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市部	虚弱	15	0	0	0.0	4	26.7	4	26.7	4	26.7
	一般	24	1	1	4.2	11	45.8	5	20.8	6	25.0
都市郊外	虚弱	6	0	1	16.7	0	0.0	1	16.7	1	16.7
	一般	24	2	2	8.7	7	30.4	4	17.4	6	26.1
地方市	虚弱	7	1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	42.9
	一般	33	2	1	3.0	0	0.0	2	6.1	13	39.4
山村	虚弱	19	0	1	5.3	1	5.3	0	0.0	12	63.2
	一般	31	1	2	6.5	1	3.2	0	0.0	20	64.5
計		159	7	8	5.0	24	15.1	16	10.1	65	40.9

表7 高齢者の地域に対する愛着度

		多いにある		どちらかといえはあ		どちらかといえは薄		とても薄		わからない		
		n	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市部	虚弱	15	8	53.3	3	20.0	2	13.3	1	6.7	1	6.7
	一般	24	14	58.3	7	29.2	2	8.3	1	4.2	0	0.0
都市郊外	虚弱	6	3	50.0	2	33.3	1	16.7	0	0.0	0	0.0
	一般	24	14	58.3	10	41.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
地方市	虚弱	7	4	57.1	1	14.3	1	14.3	1	14.3	0	0.0
	一般	33	16	48.5	8	24.2	6	18.2	1	3.0	2	6.1
山村	虚弱	19	14	73.7	2	10.5	1	5.3	1	5.3	1	5.3
	一般	31	27	90.0	2	6.7	1	3.3	0	0.0	0	0.0
計		159	100	62.9	35	22.0	14	8.8	5	3.1	4	2.5

表8 参加している地縁組織

		「はい」と回答した人 複数回答										
		隣組		地区班		字会・町会・自治会		商店街組合		子供会		
n	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
都市部	虚弱	15	1	6.7	2	13.3	7	58.3	0	0.0	0	0.0
	一般	24	6	25.0	20	8.3	10	47.6	1	4.2	0	0.0
都市郊外	虚弱	6	1	16.7	0	0.0	2	33.3	0	0.0	0	0.0
	一般	24	3	12.5	1	4.2	9	37.5	0	0.0	1	4.2
地方市	虚弱	7	3	42.9	0	0.0	2	28.6	0	0.0	0	0.0
	一般	33	3	9.1	2	6.1	14	42.4	1	3.0	3	9.1
山村	虚弱	19	1	5.3	8	42.1	3	15.8	0	0.0	0	0.0
	一般	31	2	6.5	12	38.7	8	25.8	0	0.0	1	3.2
計		159	20	12.6	45	28.3	55	34.6	2	1.3	5	3.1

		「はい」と回答した人 複数回答										
		婦人会		老人会		防災協会・消防団		農業委員会		体育協会		
n	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
都市部	虚弱	15	2	13.3	2	13.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般	24	1	4.2	7	29.2	1	4.2	0	0.0	0	0.0
都市郊外	虚弱	6	0	0.0	3	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般	24	0	0.0	12	50.0	1	4.2	0	0.0	0	0.0
地方市	虚弱	7	0	0.0	2	28.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般	33	3	9.1	11	33.3	6	18.2	0	0.0	2	6.1
山村	虚弱	19	1	5.3	10	52.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般	31	2	6.5	20	64.5	0	0.0	2	6.5	0	0.0
計		159	9	5.7	67	42.1	8	5.0	2	1.3	2	1.3

		「はい」と回答した人 複数回答										
		PTA		体育協会		檀家		氏子会		なし		
n	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
都市部	虚弱	15	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	46.7
	一般	24	0	0.0	1	4.2	1	1.0	1	4.2	7	29.2
都市郊外	虚弱	6	0	0.0	1	16.7	0	0.0	0	0.0	2	33.3
	一般	24	0	0.0	1	4.2	0	0.0	0	0.0	5	20.8
地方市	虚弱	7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	42.9
	一般	33	2	6.1	2	6.1	0	0.0	2	6.1	7	21.2
山村	虚弱	19	0	0.0	4	21.1	6	31.6	1	5.3	4	21.1
	一般	31	1	3.2	2	6.5	8	25.8	11	35.5	0	0.0
計		159	3	1.9	11	6.9	15	9.4	15	9.4	35	22.0

表9 地縁組織以外の住民の自主的な活動への参加状況  
参加している人の人数と割合

		n	人数	%
都市部	虚弱	15	4	28.6
	一般	24	13	54.2
都市郊外	虚弱	6	1	16.7
	一般	24	15	62.5
地方市	虚弱	7	3	42.9
	一般	33	17	51.5
山村	虚弱	19	2	10.5
	一般	31	16	53.3
計		159	71	44.7

表10 住民の自主的な活動の内容 (参加している人のみ)

		運動や体操		趣味のサークル		サロン・おしゃべり・食事会		旅行や外出		学習会		ボランティア活動		その他		
		n	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
都市部	虚弱	4	1	25.0	3	75.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	50.0	0	0.0
	一般	13	2	15.4	5	38.6	1	7.7	3	23.1	2	15.4	1	7.7	3	23.1
都市郊外	虚弱	1	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0			0	0.0	1	100.0
	一般	15	7	46.7	6	40.0	3	20.0	2	13.3			3	20.0	0	0.0
地方市	虚弱	3	0	0.0	0	0.0	3	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3
	一般	17	3	17.6	5	29.4	8	47.1	4	23.5	2	11.8	2	11.8	5	29.4
山村	虚弱	2	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0
	一般	16	7	43.8	5	31.3	2	12.5	1	6.3	1	6.3	5	31.3	2	12.5
計		71	21	29.6	25	35.2	17	23.9	10	14.1	5	7.0	13	18.3	13	18.3

表11 1ヶ月以内の保健福祉センターの利用状況

		利用あり		利用なし		わからない		
		n	人数	%	人数	%	人数	%
都市部	虚弱	15	3	20.0	11	73.3	1	6.7
	一般	24	14	58.3	10	41.7	0	0.0
都市郊外	虚弱	6	3	50.0	3	50.0	0	0.0
	一般	24	12	50.0	12	50.0	0	0.0
地方市	虚弱	7	0	0.0	7	100	0	0.0
	一般	33	10	31.3	22	68.8	0	0.0
山村	虚弱	19	7	38.9	10	55.6	1	5.6
	一般	31	8	27.6	21	72.4	0	0.0
計		159	57	35.8	96	60.4	2	1.3



表12 保健センターを利用しなかった理由 (複数回答)

	虚弱n=31		一般n=65	
	人数	%	人数	%
①何が行われているか知らない	4	22.5	10	15.4
②行きたいメニューがない	5	16.1	18	27.7
③送迎の手段がない	0	0.0	1	1.5
④興味や関心がない	3	9.7	11	16.9
⑤時間的に余裕がない	1	3.2	0	0.0
⑥その他	14	45.2	30	46.2

○その他について

いく必要がない	11
病院に行っているので必要がない	9
行事がなかったから	6
健康だから	2
具合がよくなかったから	2
家族は健康のことはすべてみてくれる	1
ドックにいつているから	1
老人センター以外にはいかない	1
足が悪いのでバスの乗り降りが大変、しかし人の手は借りたくない。	1
看病のため時間がなかったから	1
若いときは子供のことでいったが、今はコミュニティセンターに行くか	1
老人センターで用が足せる	1
目が悪いから	1

表13 行政職員との関わりの有無

		n	あり		なし	
			人数	%	人数	%
都市部	虚弱	15	2	13.3	13	86.7
	一般	24	7	30.4	16	69.6
都市郊外	虚弱	6	4	66.7	2	33.3
	一般	24	14	58.3	10	41.7
地方市	虚弱	7	5	71.4	2	28.6
	一般	33	5	15.6	27	84.4
山村	虚弱	19	10	52.6	9	47.4
	一般	31	19	61.3	12	38.7
計		159	66	41.5	91	57.2

表14 行政職員に町づくり等で意見を求められたか

		n	あり		なし	
			人数	%	人数	%
都市部	虚弱	15	0	0.0	14	100
	一般	24	6	28.6	15	71.4
都市郊外	虚弱	6	0	0.0	6	100
	一般	24	4	16.7	20	83.3
地方市	虚弱	7	0	0.0	7	100
	一般	33	4	12.1	29	87.9
山村	虚弱	19	0	0.0	18	100
	一般	31	3	10.0	27	90.0
計		159	17	10.7	136	85.5

表15 地域別・健康度別の日常生活圏の範囲

単位Km

		n	平均値	標準偏差	最小値	最大値
都市部	虚弱	15	0.91	1.10	0	4.7
	一般	24	1.71	2.49	0	12.0
都市郊外	虚弱	6	2.05	2.77	0	7.5
	一般	24	2.13	2.86	0	11.3
地方市	虚弱	7	2.79	3.02	0	7.5
	一般	33	3.53	3.23	0.1	16.0
山村	虚弱	19	7.30	9.32	0	30.0
	一般	31	11.50	12.23	0.5	45.0

表16 地域別・健康度別の1週間のうち、定期的にゆく最も遠い場所

		n	買い物	銀行・郵便局	病院・クリニック	その他	人と会う場所	左記以外
都市部	虚弱	14	11 84.6	0 0.0	0 0.0	2 15.4	0 0.0	
	一般	24	18 78.3	0 0.0	2 8.7	1 4.3	1 4.3	
都市郊外	虚弱	4	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	病院クリニック/その他の場所が等距離1名
	一般	17	10 55.6	0 0.0	3 16.7	1 5.6	3 16.7	買い物/病院クリニックが等距離1名
地方市	虚弱	4	3 75.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	
	一般	27	19 67.9	1 3.6	1 3.6	4 14.3	2 7.1	買い物/人と会う場所が等距離1名
山村	虚弱	11	8 72.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 27.3	
	一般	27	19 63.3	1 3.3	3 10.0	0 0.0	6 20.0	買い物/その他/人と会う場所が等距離1名

表17 要因別の日常生活圏域の範囲

単位Km

		n	平均値	標準偏差	検定
地域	都市部	39	1.40	2.09	F=15.0**
	都市近郊	30	2.12	2.79	
	地方市	40	3.40	3.17	
	山村	50	9.91	11.30	
健康度	虚弱	47	3.92	6.69	F=0.73
	一般	112	5.04	7.93	
性別	男性	41	6.62	10.11	F=3.54
	女性	118	4.05	6.40	
年齢階級	60歳代	36	5.76	9.83	F=0.85
	70歳代	74	5.06	7.71	
	80歳代	44	3.60	5.30	
	90歳代	5	1.79	1.72	
家族構成	単身	50	3.15	4.19	F=6.80*
	高齢世帯	48	7.96	11.31	
	その他	61	3.44	4.97	
就労状況	している	20	4.56	9.93	F=0.10
	していない	139	4.74	7.23	
地縁組織参加	している	124	5.20	8.06	F=2.31
	していない	35	3.00	5.35	
住民の主体的活動への参加	している	71	5.07	6.73	F=0.18
	していない	85	4.55	8.35	
合併	あり	73	7.49	10.02	F=20.4**
	なし	86	2.35	3.10	

地区名:  
市町村合併 あり ・ なし  
ID

地域住民聞き取り調査記入

平成18年度市町村合併に伴う日常生活圏域と保健福祉サービスの提供のあり方等に関する調査票

いまから、普段の外出の様子や人との交流などについて伺います。時間は大体1時間程度です。

\*市町村合併のない地域では1時間もかかりません。

問1 性別→質問せず、あてはまるほうの番号に○を記入

1.男 2.女

問2 失礼ですが、年齢はおいくつですか。 歳(平成18年1月1日現在を記入してください)

問3 この市町村に住まれてどの位ですか。→あてはまる番号一つに○を記入。(○は一つだけ)  
※5と6両方の人は6のみに○。

1. 1年未満 2. 1年以上5年未満 3. 5年以上10年未満  
4. 20年以上30年未満 5. 30年以上 6. 生まれて以来ずっと

問4 現在、どなたかとお住まいですか。家族構成を教えてください。→あてはまる番号一つに○を記入。  
(○は一つだけ)

1. 単身 2. 高齢世帯(配偶者と二人ぐらし) 3. その他( )

問5 現在、何か勤務をされていますか。(給料を得るような仕事)→しているとこたえた場合は、さらにその頻度をきいてください。

1. している →→ その頻度 (月に 日程度出勤)  
2. していない